

中学生の進路意識に与える影響とは？

What factors influence junior high school students
in their thoughts about future careers.

大 前 泰 彦 (湯浅中学校)

Yasuhiko OHMAE

キーワード：進路意識，進路の授業，中学生

本研究の目的は、(1)中学生の進路意識に与える要因について調査し、因果モデルを作成すること、(2)自身の人生全体を見つめる授業を行い自己理解を深めさせることであった。進路意識（未来への見通し）は、勉強に対する姿勢や自己満足度に影響され、勉強に対する姿勢や自己満足度は、学校での居心地に規定されていることが分かった。また、Circles testとの関係を求めた結果、未来志向性と質問紙による進路意識との関係が明らかとなった。現在の幸せ・未来の幸せ・ライフラインをテーマにした授業では、現在は対人関係による幸福感が少ないが、将来は家族・友人とともに過ごすことが理想としている生徒が多かった。

1 はじめに

中学生の時期は、自我に目ざめ自己探求が始まると共に、自己の将来に向けて進路選択への第1歩をふみ出していく課題に直面していく。内藤(1991)は、進路意識にかかわる職業的発達段階として、①生きる手ごたえ探索期（乳幼児期・児童期）、②生きがい探索期（中学生期・高校生期・大学生期）、③生きがい発見・追求期（成人期）、④生きがい創造期（老年期）の4段階を提唱している。中学生期は、生きがい探索期初期であり、好みや興味・関心だけの将来像から、自分が希望している職業に関して、就くための情報（適性、就けるための可能性）や就いてからの情報（収入や労働時間など）を親や教師、友人などから入手し吟味し始める時期である。

岩崎(1999)は、小学生を対象として調査を行い、明確な進路意識を育成するためには、健全な自己評価が必要であることを明らかにし、自尊感情の進路意識への影響を見い出している。長谷川(1999a)は、中学生の自尊感情と進路選択能力の関連を求め、自尊感情と進路決定に対する自己効力の間には高い相関があるという結果を得ている。高瀬(1999)は、高校生が現在の高校生活にどのように適応しているかは、彼らの進路意識や将来の展望と密接な関係にある、と述べている。また、深谷(1997)は、中学生に対して調査を行った結果、「将来つきたい仕事や夢がありそのための努力をしている」生徒は、「仲間から信頼されている」や「友達がたくさんいる」、「よく勉強している」などの自己評価をおこなっている傾向にあった、と報告している。以上の先行研究から、進路意識は学校での適応感、自己評価、学習に対する姿勢等と密接な関係にあるといえる。本研究は、①これらの要因に関する質問紙調査を行い、進路意識に関する因果モデルを検討するとともに、②現在の幸せ・未来の幸せ・ライフラインをテーマにして、自分の人生全

体を見つめ、自己理解と進路意識を深める授業を行い、中学生の現在の適応感と将来への見通し（進路意識）を分析・考察するものである。授業の結果と考察は、1997年度中学2年生のクラス（36名）で行った記録をもとにしたものである。

2 研究Ⅰ 進路意識に影響を及ぼす要因についての質問紙調査

方 法

調査時期 2000年1月

被験者 中学校1年生 148名(男子77名,女子71名)

質問紙 ①学校生きがい感尺度：長谷川(1999b)の中学生用「生きがい感」尺度から15項目選定した。各項目は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の5件法で回答され、それぞれ、5点から1点が与えられた。

②Circles Test：富安(1997)が用いた尺度を使用した。教示は文章で「円を3つ描いてください。コンパスで描くのがベストですがフリーハンドでもよろしい。1つは過去、もう1つは現在、あと1つは未来をイメージしてください。大きさは自由です(3つの円の大きさがみな違ってよい)。位置関係も自由です(3つの円が離れていても、くっついていても、中に入ってもよい)。最後に、描いた円の円周上に「過去」「現在」「未来」のいずれかを書き入れてください」と呈示して、教示文の下の方の正方形の枠(20.5cm×20.5cm)の中に3つの円を描くように求めた。このCircles testの分析は、時間的優越性、時間的展開性、時間的関連性の3指標を用いた。時間的優越性とは、過去、現在、未来のいずれかが優勢であるかを示す指標で、どの円が一番大きいかによって、(1)過去優勢、(2)現在優勢、(3)未来優勢、(4)その他に分類される。時間的展開性は、時間的展望の時間的展開方向を示す指標で、(1)未来展開(過去、現在、未来の順で円が大きくなっていくように描かれているもの)、(2)過去展開(過去、現在、未来の順で円が小さくなっていくように描かれているもの)、(3)その他、に分けられた。時間的関連性は、過去、現在、未来の統合度を示す指標で、(1)時間的原子(2つ以上の円が離れている状態)、(2)時間的連続(2つの円が接しているまたは重なっている状態)、(3)時間的統合(1つの円がもう1つの円に含まれている状態)の3つに分類した。

結果と考察

学校生きがい感尺度15項目を因子分析した結果を示す(表1)。5つの因子は、長谷川の中学生用「生きがい感」と同様に、それぞれ、「学校での居心地」「教師との関係」「勉強に対する姿勢」「将来への見通し」「自己満足度」と命名された。この中で「将来への見通し」は中学生の進路意識を表すものと考えられた。次にこれらの項目を観測変数とし(表2)、5つの因子をそれぞれ構成概念として共分散構造分析を行った。表3は、構成概念間の相関、図1は共分散構造分析モデルである。分析はSASのCALISプロシジャが用いられた。GFI=0.87, AGFI=0.81であった。

Circles testと学校生きがい感尺度の関係は、Circles testの3指標(時間的優越性、時間的展開性、時間的関連性)について、被験者は3群または2群に分けられ、学校生きがい感尺度の下

表1 学校生きがい感尺度の因子分析結果（プロマックス回転後）

	I	II	III	IV	V	h^2
I 学校での居心地						
学校へ行くのが楽しい	.90	.14	.22	-.16	-.14	.83
学校にいと幸せだ	.84	.05	.36	-.05	-.11	.74
学校のことを考えると気分が悪くなることもある	-.70	-.09	-.13	-.07	.41	.61
II 将来の見通し						
将来の進路について何か目標を持っている	.09	.82	-.01	-.19	-.02	.70
自分の興味や関心に合うと思われる進学先や職業を選ぶことができる	.01	.81	.11	-.12	-.33	.75
自分の理想の仕事を思い浮かべることができる	.13	.78	.09	-.06	.09	.65
III 教師に対する思い						
先生は生徒のことをよく聞いてくれる	.13	.13	.84	.09	-.04	.74
先生は何でもよく分かるように教えてくれる	.25	.05	.87	-.16	-.08	.78
何か失敗しても先生は温かく見守ってしてくれる	.41	.01	.75	.04	-.03	.62
IV 勉強に対する姿勢						
勉強が苦手だ	.01	-.11	.03	.81	.05	.67
テストのことを考えるといやでたまらなくなる	-.00	-.01	.07	.71	.36	.59
むずかしい問題にも挑戦してみたい	.21	.33	.21	-.64	-.15	.52
V 自己満足度						
私はあまり役に立たない人間だ	-.16	-.25	-.10	.27	.77	.64
何かしようとするとき自分にそれができかどうか不安になる	-.06	-.16	.02	.23	.66	.51
自分がほかの人であればよかったのに	-.33	-.09	-.13	-.05	.57	.41
二乗和	2.49	2.24	2.34	1.85	1.88	

表2 観測変数（*は逆転項目）

(学校での居心地)	
X1	私は学校へ行くのが楽しい
X2	私は学校にいと幸せだ
X3	私は学校のことを考えると気分が悪くなることもある*
(教師に対する思い)	
X4	何か失敗しても先生は温かく見守ってしてくれる
X5	先生は何でもよく分かるように教えてくれる
X6	先生は生徒の言うことをよく聞いてくれる
(自己満足度)	
X7	自分がほかの人であればよかったのに*
X8	私はあまり役に立たない人間だ*
X9	私は何かしようとするとき自分にそれができかどうか不安になる*
(勉強に対する姿勢)	
X10	私は勉強がにがてだ*
X11	私はむずかしい問題にも挑戦してみたい
X12	私はテストのことを考えるといやでたまらなくなる*
(将来の見通し)	
X13	私は自分の理想の仕事を思い浮かべることができる
X14	私は将来の進路についてなにか目標を持っている
X15	私は自分の興味や関心に合うと思われる進学先や職業を選ぶことができる

表 3 構成概念間の相関行列

	1	2	3	4
1 学校での居心地				
2 教師との関係	.31			
3 勉強に対する姿勢	.12	.05		
4 将来への見通し	.05	.07	.21	
5 自己満足度	.33	.12	.24	.08

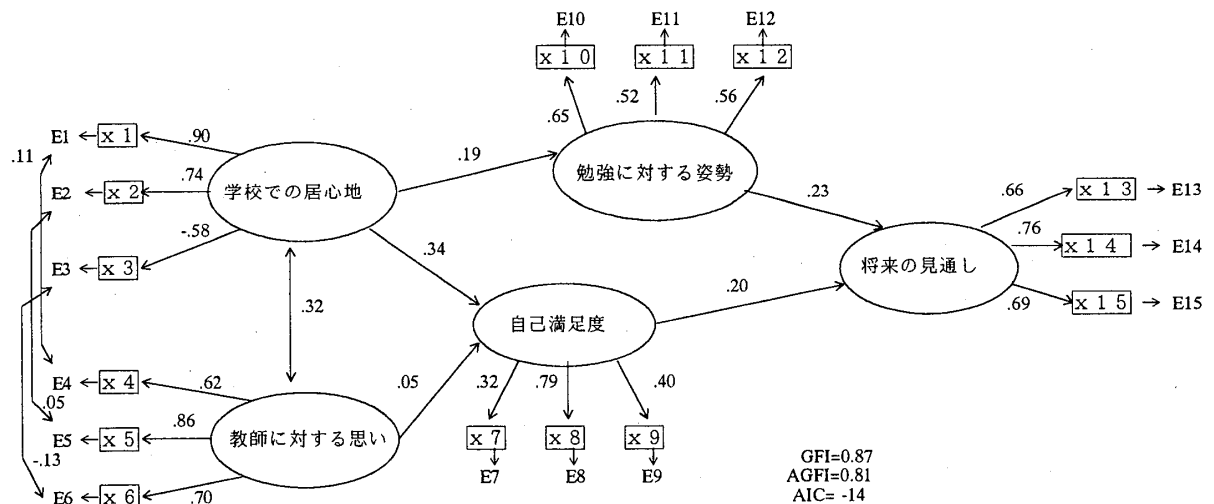


図 1 進路意識に与える影響モデル

位尺度得点の平均値と標準偏差から、分散分析あるいはt検定で求められた。これらの結果を、表4～表6に示す。時間的優越性では、未来優勢群と現在優勢群は過去優勢群に比べ学校での居心地がよいと感じていた。また、未来優勢群は現在優勢群に比して進路意識（将来への見通し）が高かった。時間的展開性では、未来展開群は、過去展開群に比して学校での居心地感や進路意識が高かった。時間的関連性では、統合群は原子群に比して勉強に対する姿勢がよりポジティブであった。

モデルでは、「進路意識（未来への見通し）」は、「勉強に対する姿勢」や「自己満足度」に影響され、「勉強に対する姿勢」や「自己満足度」は、「学校での居心地」に規定されているが、「自己満足度」への「教師に対する思い」の影響は少ない。この「教師に対する思い」以外は、岩崎(1999)、長谷川(1999)、高瀬(1999)らの「現在の学校適応度や自己評価が進路意識に影響を与えている」という主張と同様であり、GFIとAGFIからみてもモデルの適合性は高いといえる。また、進路意識は高校受験を控えた中学生にとって学習に対する姿勢と密接な関係にあるといえるが、本調査においても、「勉強に対する姿勢」が進路意識に好影響を与えることが分かった。

表4 時間的優勢性における学校生きがい感下位尺度の得点

		過去優勢 (1)	現在優勢 (2)	未来優勢 (3)	F値 DF=2/120	多重比較 5%水準
学校での居心地	M (SD)	9.1 (3.9)	11.6 (2.5)	11.2 (2.7)	2.5 ⁺	(1)<(2), (3)
教師との関係	M (SD)	8.8 (2.1)	10.2 (2.2)	9.7 (2.7)	n. s.	
勉強に対する姿勢	M (SD)	7.3 (3.8)	6.7 (2.1)	7.6 (2.6)	n. s.	
将来への見通し	M (SD)	8.7 (2.9)	8.5 (3.3)	10.2 (2.4)	4.6 [*]	(2)<(3)
自己満足度	M (SD)	8.1 (1.6)	9.4 (1.9)	9.3 (2.5)	n. s.	
N		8	24	91		

*p<.10 *p<.05

表5 時間的展開性における学校生きがい感下位尺度の得点

		過去展開 (1)	未来展開 (2)	t値 DF=80
学校での居心地	M (SD)	9.6 (3.0)	11.4 (2.5)	2.6 ⁺
教師との関係	M (SD)	9.8 (1.7)	9.9 (2.6)	n. s.
勉強に対する姿勢	M (SD)	6.1 (2.3)	7.6 (2.1)	n. s.
将来への見通し	M (SD)	8.2 (1.3)	10.1 (2.5)	2.7 ⁺
自己満足度	M (SD)	8.1 (0.9)	9.4 (2.4)	n. s.
N		6	76	

*p<.10

表6 時間的関連性における学校生きがい感下位尺度の得点

		原子 (1)	連続 (2)	統合 (3)	F値 DF=2/143	多重比較 5%水準
学校での居心地	M (SD)	10.9 (2.5)	10.9 (3.2)	11.7 (2.4)	n. s.	
教師との関係	M (SD)	10.1 (2.4)	9.3 (2.6)	9.5 (3.5)	n. s.	
勉強に対する姿勢	M (SD)	7.2 (2.6)	7.6 (2.5)	9.1 (2.7)	2.3 ⁺	(1)<(3)
将来への見通し	M (SD)	9.5 (2.7)	10.1 (2.9)	10.1 (2.9)	n. s.	
自己満足度	M (SD)	8.9 (2.2)	9.4 (2.7)	9.5 (1.7)	n. s.	
N		73	64	9		

*p<.10

ただし、深谷(1997)のいうように、この「勉強に対する姿勢」は実際の成績ではなく「姿勢」である。したがって進路指導においては一人ひとりの前向きな「姿勢」を評価し、自尊感情を高めていく必要がある。

Circles testでは、未来の円を大きく描いた生徒は、未来を大きく豊かなものとしてイメージしており、より明確な進路意識をもっていた。また、未来展開（過去、現在、未来の順で円が大きくなっていくように描いている生徒）も同様に、過去展開に比して未来がよりよいものとして広がりを見せていくようにイメージしており、進路意識が高かった。

毎年95%を越える高校進学状況から、進路指導がややもすれば高校選び・入試対策に偏ってしまう傾向もあるが、本調査結果にもあるように、進路意識は現在の学校適応感、自己満足度に規定されていることから、生徒一人ひとりの自己評価を高め、希望する進路先を獲得する「to have」だけではなく、心の状態を大切に「to be」、すなわち、「生き方」としての進路指導を強化していくことが必要であろう。

3 研究Ⅱ 自己史から現在・過去・未来を考える進路の授業 ー現在の幸せ・未来の幸せ・ライフラインー

方 法

中学2年生36名のクラスを対象とし、①「現在の生活で最も幸せな1日とはどんな日か」 ②10年後の生活で最も幸せな1日とはどんな日か ③ライフライン(柴田：1995)を描きなさいの指示によって、

- ・自分の理想とする生活を、現在および未来の時点において具体的に想定させ、主体的な活動の必要性を理解させる。
- ・自分自身の人生全体を見つめさせる。
- ・多様な生き方があることに気づかせる。

等を目的とした授業を行う。

展開（教師の発問および指示）

導 入：きょうは、現在の自分の生活や将来の生活について考えます。

指示1：今、現在の生活で、「最も幸せな1日」とは、どんな日でしょうか。朝起きてから夜眠るまでをくわしく思い浮かべて下さい。思い浮かんだら、学活プリントに書いて下さい。
(時間は10分です)

留意点：特に制限は設けないので、平日でも休日でもよい。遊び事ばかりでも一向にかまわないが、「今、現在」の彼／彼女にとっての現実を書かせたい。したがって、「こうなったらいいな」というような非現実的な内容ではなく、実際に経験したことのある方がよいと思う。書き終わった段階で、次の指示をする。

指示2：みんなが書いた文章の中には、例えば、天気や運など、自分自身の努力とは関係のない偶然の要因による出来事が書いてありませんか。もし、そういうことが書いてあれば、その部分は、上に線を引いて消して下さい。

留意点：ここでは、今の最も幸せな1日の中で、自分自身の主体的な活動がどれだけ入っているのかを気付かせたい。全く線を引かないでよい生徒もいれば、殆どの部分が消えてしまう場合もある。「誰かに何かをしてもらった」等は、自分の努力ではないので、線を引くことになる。

説明1：残った文章はどうなったでしょうか。線で消したところが少ないということは、自分の努力や活動が多いことを意味します。反対に、線を引いたところが多い人は、偶然の出来事やほかの人に頼っているところが多いのかもしれない。

指示3：次に、10年後の生活で「最も幸せな1日」を思い浮かべて下さい。朝起きてから夜眠るまでを思い浮かべて下さい。思い浮かんだら、学活プリントに書いて下さい。（時間は10分です）

留意点：ここでは、線引きはしないが、指示2と説明1によって、自分自身の活動を意識した文章を書く生徒が多くなる。ただし、この「10年後の生活」では、文章が短くなる生徒が多い。しかし、たくさん書かせるのが目的ではない。たとえ文章化できなくとも、未来の自分の生活を想像してみること自体に意味がある。

説明2：現在の幸せと未来の幸せについて考えてもらいました。しかし、現実の生活は、幸せばかりではありません。幸福なこともあれば、不幸なこともありますね。「人生、山あり谷あり」と言います。いろいろなことがあってこそ、人生なのですね。

指示4：（ライフラインを配布）プリントを見なさい。

説明3：プリントの説明をします。ライフラインと言います。グラフのようなものです。縦軸が「幸福度」です。上にいけばいくほど幸福度が高く、まん中の線から下にいけばいくほど「不幸」になります。まん中の線、横軸は、誕生から死ぬまでの年数を表しています。例えばこのようになります。（例示）

指示5：自分の一生についてライフラインを書きなさい。（時間は10分です）

留意点：簡単な説明で描くことができるが、黒板等で教師自身のライフラインを示して自己開示の方がよいと思う。横軸は目盛りを自由にとって、何歳まで生きてもよいようにする。曲線で描く生徒が多いが中には定規を使う生徒もいる。自由である。また、下に落ち込んだり上に上がったときのライフ・イベントを書き入れる生徒もいるが、これも自由である。ライフラインができあがれば、次の指示をして終了になる。

指示6：机をくっつけてグループになりなさい。順番を決めて、ひとりずつ出来上がったライフラインの説明をしなさい。1人が発表したあと、ほかの人が質問してもよろしい。

留意点：他人の前で声を出して発表することやほかの生徒からの質問に答えることによって、自分のライフラインについてより明確なイメージが求められることになり、再度自分自身を見つめ直すことができる。また、班の友達の新たな部分を知ることができ、新たな出会いも期待される。にこやかに発表し合い、興味深く質問し合うことができれば、この授業によって得られるものは大きいであろう。

結果と考察

現在の「最も幸せな1日」は、日曜日の出来事を書いている生徒が多かったが、学校での生活を書いている生徒も何人かいた。活動内容は、「テレビやビデオを見る」がたいへん多く、次いで、「パソコンやゲームをやる、音楽を聞く、絵を描く」などである。中には、「数学と英語の勉強をする」という生徒も何人かいた。「寝る」というのもあった。今回の授業では、線引きの箇所が少ない生徒が多く、とくに、「誰々に～してもらった」等の内容が皆無であった。したがって、家族のことは全く出てこなかった。これは、意外であった。また、「友達と何かをして遊ぶ」というようなことも極めて少なかった。

これらのことから、子どもたちは、ストレスフルな状況の中で、対人関係によって癒されることを期待していないのではないかと考えられる。たとえ家族や友人であっても気を遣うのかもしれない。独りでリラックスしながら軽く集中すること（テレビ、ビデオ、パソコン）などが、最もストレス解消になり、幸福感が得られているのかもしれない。

「10年後の最も幸せな1日」では、文章が書けなかったり、文章の短い生徒が少数みられたが、書いている内容で特徴的だったのは、「家族みんなでご飯を食べる」とか、「友達とカラオケに行く」など、家族や友人と何かをするというような内容が多かったことである。それは、現在の生活に対する不満や、かくありたいという理想が表現されているのではないだろうか。今、現在の状況では、家族や友人との関係は自分自身の幸福感とは直結しないけれど、本当は、よい関係を築きたい、という思いが表現されているのではないかと考えられる。

また、「10年後の最も幸せな1日」では、具体的な職業についてふれている者は少なかった。別の時間などで、「将来、どんな職業につきたいですか」に対する回答では、職業名をはっきり書いている生徒でも、その職業に就いてどのような暮らしをするかについては、想像しにくいようであった。しかし、このセッションは、教師から見て素晴らしいと思う内容を書かせることが目的ではなく、生徒の今の心境から現在と未来について「考えさせる時間を設定する」ことを主眼とするのであって、たとえ、全く書けていなかったとしても、その生徒の、今ここ(Now & Here)での気持ちを表しているのであるから、教師はそれを受容すべきであろう。

さらに注意すべきは、このような「文章を書かせる」授業においては、文章表現が苦手な生徒は、書けなかったり、短い文章であることが多く、その点の配慮が必要なことであろう。つまり、進路学習の時間は、作文の時間ではないのである。文章力のある生徒がよい評価を受ける時間ではないのである。この点で、ライフラインは、簡単に自分のイメージを投影できる。今回の授業では、今現在の状況は不幸であるという生徒が多かった。以前行った授業でも、その傾向が強かっ

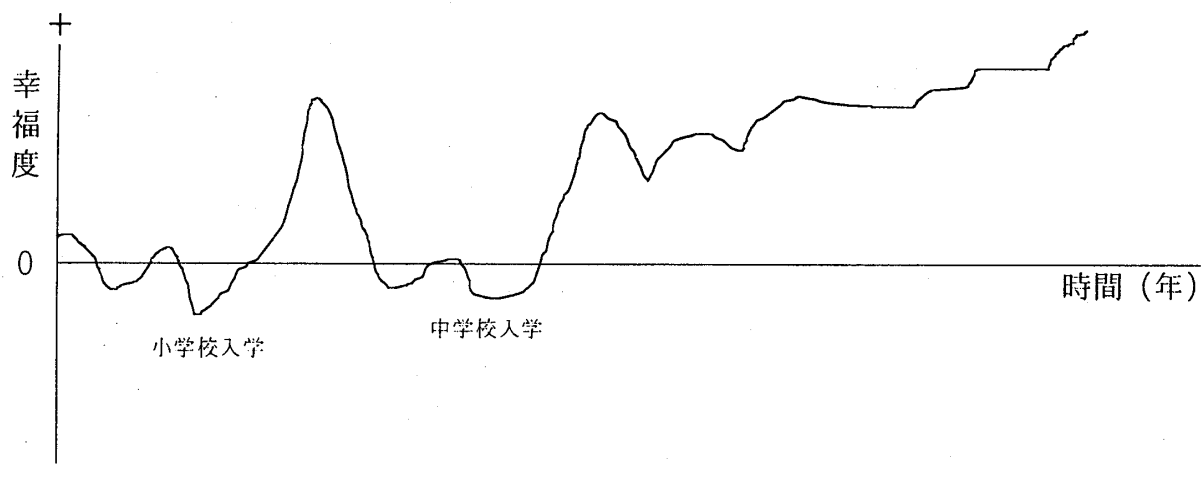
た。小学校までが、わりあい幸福で、今が不幸で、中学卒業から20代、30代にかけてとても幸福になる、というのが多かった。教師の机間巡視の際に、このことを説明してくれる生徒もいた。今回は行わなかったが、これを教育相談にも使うこともある。教師の自己開示もふくめたライフラインによって、生徒とのラポールをとるのに効果的だったケースもある。

Appendix

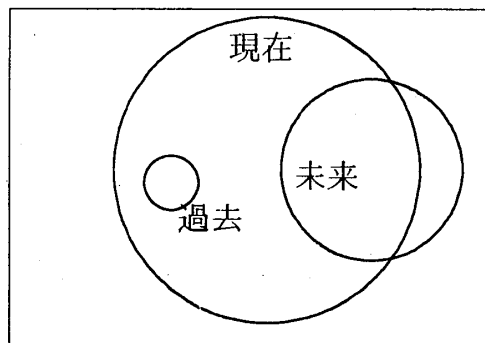
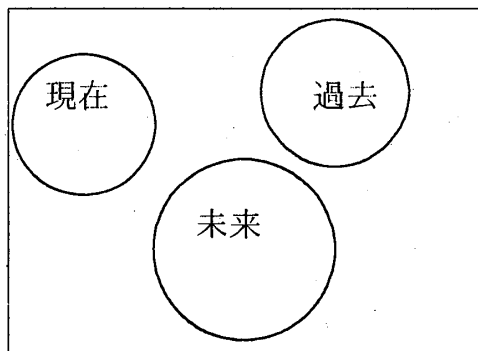
現在の最も幸福な一日

10年後の最も幸福な一日

ライフライン



Circles Test



文 献

- 長谷川龍彦 1999a 中学生の自尊感情と進路選択能力との関連 進路指導研究,19,35-43.
- 長谷川龍彦 1999b 中学生用「生きがい感」測定尺度作成の試み 福井県教育庁嶺南教育事務所研究紀要 第3号
- 深谷野亜 1997 モノグラフ中学生の世界 深谷昌志他(編) Vol.58 中学生の人生観
- 岩崎久美子 1999 小学生の進路意識と学業成績に及ぼす心理的要因—原因帰属と自尊感情 進路指導研究,19,26-34.
- 柴田俊和 1995 わたしの歴史 川瀬正裕・松本真理子(編) 自分探しの心理学 ナカニシヤ出版 101-106.
- 高瀬克義 1991 高校生の学校適応感研究と進路指導 内藤勇次(編) 生き方の教育としての学校進路指導 北大路書房 42-43.
- 富安浩樹 1997 大学生における進路決定自己効力と時間的展望との関連 教育心理学研究,45, 329-336.